

Re-Inventing Japan Project  
大学の世界展開力強化事業

Inter-university Exchange Program toward Medical and Dental Networking  
in Southeast Asia  
東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム

## オーストラリア・シドニー大学における 歯科医療研修プログラム

### Dental Training Program In The University of Sydney, Australia

July 18 – 27 2015



THE UNIVERSITY OF  
**SYDNEY**



東京医科歯科大学  
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

## I 歯科医療研修プログラム Dental training program

### 1. 研修期間 2015 年 7 月 18 日（土）～7 月 27 日（月）

Period: July 18-27, 2015

### 2. プログラムの目的

#### ① 英語能力の向上

オーストラリアの学生や教員と英語で会話し、一般事項だけでなく、歯科の専門的な事項においてもディスカッションやディベートができる能力を身につける。

#### ② 異文化理解

オーストラリアの文化、自然、生活習慣等について体験し、理解する。

#### ③ オーストラリアおよび日本の歯科保健状況や問題点の検討

オーストラリアの歯科保健状況、歯学教育システムについて理解する。

オーストラリアにおける水道水フッ化物添加によるう蝕予防に関する理解を深める。

#### ④ 国際的視野を涵養し、学生が将来指導者となるための動機づけ

国際的視野を養い、将来、人々と協力して国内外において指導的立場で働ける人となるための動機づけを行う

### Goals of the program

#### ① To improve English ability

To communicate with Australian students and staff in English about general matters and also to promote international discussion and debate about dental professional matters.

#### ② To promote cross-cultural understanding

To appreciate and respect for cultural differences (traditional culture, religion, belief and lifestyle diversities) between nations and to accept the differences without prejudice

#### ③ To understand oral health situation and problems between Australia and Japan

To understand the oral health situation and dental education systems in Australia

To enhance the knowledge of caries prevention by water fluoridation in

Australia

④ **To get international viewpoints and motivate students to become future dental leaders**

To cooperate with others and to learn leading roles among national and international dental professional communities

3. 派遣先：オーストラリア ニューサウスウェールズ州シドニー大学

Place: The University of Sydney, New South Wales, Australia

4. 参加学生：歯学部歯学科 6 年

Students: 6 year dental students

1	イガラシ ナナセ 五十嵐 七瀬	Nanase Igarashi	F	2401	31090052
2	キシ ミサコ 岸 美沙子	Misako Kishi	F	2411	31090192
3	シラハ ユエ 白羽 悦	Yue Shiraha	F	2259	31083092
4	スガ タカユキ 須賀 隆行	Takayuki Suga	M	2427	31100261
5	ナカムラ サエコ 中村 早瑛子	Saeko Nakamura	F	2438	31100392
6	ハセ ヒトミ 長谷 仁美	Hitomi Hase	F	2443	31090432
7	フジタ ユウカ 藤田 優華	Yuuka Fujita	F	2448	31100462

5. 指導教員 supervisors

竹原祥子（健康推進歯学分野、国際交流センター）  
TMDU Sachiko Takehara

駒田亘 摂食機能保存学  
TMDU Wataru Komada

Prof. Chris Peck, Dean  
Faculty of Dentistry, the University of Sydney

Prof. Hans Zoellner  
Head, Cellular Molecular Pathology Research Unit  
Chairman, Association for the Promotion of Oral Health  
Faculty of Dentistry, the University of Sydney

Dr. Akex Wirianski  
Faculty of Dentistry, the University of Sydney

Ms. Ene Juurma  
Associate director, Development, Sydney Dental School, the University of Sydney

Prof. Richard P Widmer  
Associate Clinical Professor  
Department Head, Dentistry, the Children's Hospital

Tracey Bowerman  
Postgraduate and Research Team Leader  
Faculty of Dentistry  
Level 2, Westmead Centre for Oral Health  
Westmead NSW 2145  
(T) 02 98457892  
(E) [tracey.bowerman@sydney.edu.au](mailto:tracey.bowerman@sydney.edu.au)

NICOLE TAYLOR | Learning & Teaching Officer DMD1 & DMD2  
Faculty of Dentistry  
E mail: [nicole.taylor@sydney.edu.au](mailto:nicole.taylor@sydney.edu.au)

## 6. 宿泊先

2015 年 7 月 18 日～26 日

Adara Camperdown Hotel.  
Call +61 2 9028 7900  
23-33 Missenden Rd & 108 Parramatta Rd  
Camperdown, NSW 2050  
<http://www.adarahotelsapartments.com.au/adara-camperdown/>

## 7. 単位認定

学生が海外研修を行い、下記の条件を満たす場合には単位を認定する。

「デンタルエクスターンシップ(Dental externship) 1 単位」

### (1) 語学能力(英語)

語学検定における所定の点数の取得 (TOEFL(iBT) 79 以上、TOEIC 730 点以上)、もしくは事前の海外派遣英語準備コース (歯科英語) を履修後に本学オリジナルの語学試験を受けて合格の 3 つの中から、いずれかの基準をクリアすること。

### (2) 研修特別コースの履修 → オーストラリアの歯科事情

### (3) 海外における生活上の注意、危機管理に関する研修の履修

### (4) 研修報告書の提出 (日本語および英語)

### (5) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績 (可以上)

### (6) 研修報告会における発表 → 2014 年 10 月 24 日 国際シンポジウムで発表

## Recognition of Credit of “Dental Externship”

Students in the Faculty of Dentistry of Tokyo Medical and Dental University who complete an overseas training program and meet the following conditions can earn one unit of credit under the name of “Dental Externship.”

### (1) English ability

Students must meet criteria in one of the following:

- TOEFL (iBT) score over 79
- TOEIC score over 730
- Passage of an English examination at TMDU

### (2) Completion of the courses to prepare for overseas program “Australian dental situation”

### (3) Completion of a crisis management course

### (4) Submission of a course report (portfolio) in English and Japanese

### (5) Evaluation from TMDU and overseas supervisors

### (6) Presentation at a feedback session

(International Symposium at TMDU on October 24, 2014)

## II 参加学生募集要項

### Invitation leaflet to recruit students

#### 平成 27 年度短期海外歯科研修プログラムへの参加学生募集について

事業推進責任者 田上 順次

本学は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～」に採択され、平成 24 年度から主に学生交流を中心に事業を展開しています。本学が実施する「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」は、チュロンコン大学(タイ)、インドネシア大学(インドネシア)、ホーチミン医科薬科大学(ベトナム)と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先端的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤とした東南アジアにおける大学間交流、ネットワーク形成を推進し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組みです。

本学は、本事業の取組みの一環として歯学科の学生が海外で研修や学生交流を行うことを支援しており、平成 26 年度からは交流相手大学にオーストラリアの大学が追加され、学生交流の機会がさらに広がりました。

平成 27 年度については、下記の要領で参加学生を募集します。

#### 記

##### 1. 派遣概要:

- 1) 派遣先: シドニー大学歯学部(オーストラリア)
- 2) 派遣期間: 平成 27 年 7 月 18 日(土)～7 月 26 日(日)
- 3) 対象学生: 歯学科 6 年
- 4) 募集人数: 6 名程度

2. 研修内容: 大学附属病院の見学・講義への参加・文化交流・学生交流等

3. 支援内容: 往復航空券

4. 奨学金: 前年度の成績評価係数(GPA)が 2.3 以上の場合、独立行政法人日本学生支援機構(以下 JASSO)から 7 万円の奨学金が支給される。(JASSO 規程により日本国籍を有する者、または日本への永住が許可されている者のみ対象)

※ GPA2.3 未満の場合、または外国人学生には奨学金は支給されないが、研修への参加は可能。

※ 前年度の GPA については、各自歯学系教務掛(2 号館 2 階)に確認すること。

なお、毎年 4 月に開示している GPA は、前年度までのトータルな GPA のため、この数値ではないことに留意すること。

5. 選考方法:

書類選考、及び面接試験(日本語／英語)の評価で行う。

※ 面接試験の日時、場所等は申請書受付後、メールにて通知する。面接試験実施予定時期は4月下旬。

6. 申込先・締切日:

申請書(様式1)を本学 HP 内 <http://www.tmd.ac.jp/grad/ohp/sekaitenkai/index.html> からダウンロードし、必要事項を入力のうえメールにて [ossu@ml.tmd.ac.jp](mailto:ossu@ml.tmd.ac.jp) まで提出してください。

なお、提出の際は、件名を「【大学の世界展開力強化事業】平成 27 年度申請書(シドニー)」としてください。

締 切:平成 27 年 4 月 17 日(金) 17:00 まで(時間厳守)

### Ⅲ 日程 Schedule

#### TMDU Dental Training Program in Australia 2015

	Date	Time		
1	2015. 07. 18 (Sat)	11:10 17:20  20:15	SQ0637 成田発  シンガポール着  SQ0221 シンガポール発	
2	2015.07.19 (Sun)	05:55 10:00 – 12:00	シドニー着 Meeting	
3	2015.07.20 (Mon)	10:00 11:00 -12:00   13:00 – 15:00 15:00 - 16:00	<b>University of Sydney Main Campus</b> Orientation of the program Library Tour  Lunch  Campus Tour Charles Perkins Centre (CPC), University of Sydney Main Campus	Alex Warianski and Dr Wataru Komada  Ene Juurma, Alex Wirianski and Dr Wataru Komada



4	2015.07.21 (Tue)		<b>Westmead Centre for Oral Health (WCOH)</b>	Prof Chris Peck/ Dr Wataru Komada
		8:45	Deans welcome	
		9:00	Tour and Orientation, WCOH	Hospital Person TBC and Dr
		10:00	Welcome Morning Tea	Wataru Komada
		10:45	Tour and Orientation (Simulation Clinic, BOH Facilities Level 1, Mons Road)	A/Prof Liz Martin/ DMD Student
		12:00	Lunch	Reps + additional staff??
		13:00	Presentation: Dentistry and population oral health in Australia	Dr Shanti Sivaneswaran (Alex Wirianski – to assist with transfers)
		14:30	- Tour and Orientation (Westmead Childrens Hospital Main Entrance)	Paul Wilson and Dr Wataru Komada
		15:45	Presentation (CHW Paediatrics Dept )	a
		16:00		(Alex Wirianski – to assist with transfers)
				Prof Richard Widmer

5	2015.07.22 (Wed)	9:00	<b>Tour and Orientation (Research Facilities)</b>	Shanika Nanayakkara (Shanika to meet students at Front Entrance to WCOH)
		10:00	Morning tea	
		10:30	Presentation	
			Management of the Medically Compromised Child (Paediatric Dentistry, Level 3, WCOH )	Dr. Carrie Tsai
		11:30 - 13:30	Lunch break	
			DMD Student Clinic Observation	Sonia (Acting Assistant Clinical Coordinator)
6	2015.07.23 (Thu)		<b>Concord Repatriation and General Hospital Centre for Education and Research on Aging</b>	Garry Law, Steven Chu, Sandra Taylor (Alex Wirianski and Wataru Komada – to assist with transfers)
		9:00	Brief History and Tour of Hospital	
		10:00	Morning Tea	
			Tour Pathology Museum and Simulation Ward	
			Talks and discussions on Services and Research at Concord	
			View the Community Dental Service Bus (Concord Medical Education Centre )	
		12:00	Lunch and Market Stalls (Village Green)	

7	2015.07.24 (Fri)	9:00	研修成果のまとめ 報告書作成	
8	2015.07.25 (Sat)		異文化体験	
9	2015.07.26 (Sun)	15:10 21:30 23:55	SQ0222 シドニー発 シンガポール着 SQ0638 シンガポール発	
10	2015.07.27 (Mon)	08:00	成田着	

#### IV 学生レポート（日本語）

五十嵐七瀬

研修初日は Alex 先生と駒田先生にお会いし、シドニー大学のメインキャンパスを案内して頂いた後、Charles Perkins Centre(CPC)の見学を行った。メインキャンパス内では広大な敷地に歴史ある建物と近代的デザインの建物とが共存しており、古い建物は学生寮も含め、修復を重ねながら景観を保っている聞いた。CPCはシドニー大学最初のアボリジニの卒業生である Charles Perkins の名を冠して建てられた、肥満・糖尿病・心疾患などの系統的疾患やそれらの合併症に関する研究・治療・教育を行っている施設である。これらの生活習慣病は様々なファクターが密接に関わることから、異なる分野の専門家や専攻の違う学生たちが同じ場所に集まって議論したり実験を行ったりできるような環境が整っている。館内は吹き抜けで一度に見渡せるようなデザインとなっており、ガラス張りの実験室、テレビ電話で会議ができるようなブース、240 名を一度に収容でき最新の設備を誇る wet lab など、とにかく多様な分野の専門家たちのため、風通しの良く近代的設備の整った施設で活発な議論ができるような環境が整えられていると感じた。

2 日目、3 日目は Westmead Centre for Oral Health で研修を行った。学生の診療の様子は日本と良く似ていたが、より自主性に任されているように感じた。Simulation Lab では、清潔・不潔の意識を徹底させるため、模型実習の段階から Universal Precaution に従って清拭を行うなど、Dental Nurse の先生に厳しく習うそうである。また、感染対策についても日本よりかなり厳しく、学生はスクラブの上から disposable のガウンを着たり、患者にも eye guard をさせたりする他、スピットンも廃止されていた。これらの様子はアメリカの大学を見学したときと良く似ており、感染予防の世界的な基準について考えさせられた。オーストラリアの歯科教育については、国家試験や研修医制度がないことを知り驚いた。また、Dental Therapist という職業があり、彼らは3年間教育を受けて学士の資格を持ち、口腔衛生指導の他、局所麻酔、乳歯の抜歯や0～18歳までの簡単なCRなどを行うことができるということを学んだ。

学生の診療室では少しの時間ではあるが、学生と指導の先生にお話を聞くことができた。まず学生による治療は無料で行われる。臨床実習は2年間で、1年目には二人ずつペアを組み7人ほどの持ち患者を1年間診る。ペアは何度も変え、お互いの良いところを学び、意見を交換し合う。実習は perio の期間、endo の期間、というように各専門のセッションを期間で区切り、それら通して症例を集中的にこなしていくスタイルとなっていた。また、カルテの各ページに患者情報シールを貼らなければならないこと、最初に治療計画を立案した際に informed consent を行い患者にサインをもらうこと、計画が変わればその都度サインをもらい直さなければならないことなどが特徴的であった。

今回の研修で個人的に最も印象的だったのは、Westmead にある小児病院の見学だった。この病院は NSW 州で最大の小児病院であり、壁に並ぶカラフルなアート作品、入院している子供た

ちを楽しませるボランティアのピエロ、車椅子のままで楽しめる公園、子供のための図書館、医療従事者は入れない遊び部屋、親が入院する子供と一緒に泊まれる施設など、子供の不安を最大限に取り除くための工夫で溢れていた。中でも、そのような施設がそれぞれ殆ど寄付でできており、たくさんのボランティアの人たちの協力で成り立っているという事実に感銘を受けた。最近では英語を母国語としない移民がかなり増えていることから、ボランティアの通訳もいるそうだ。また、歯科の診療室では小児歯科の **Richard Widmer** 先生の講義を受け、小児の **behaviour control** についても少し教えていただくことができた。

今回の研修を通して、オーストラリアの歯科事情を学べたこと・考えさせられたことは、大変意義ある経験となったと感じている。最後に、今回お忙しい中現地でアテンドして下さいました **Alex** 先生、駒田先生を始め、各施設で貴重なお話を聞かせてくれた先生方、このような機会を設けて下さった皆様、本研修でお世話になった全ての方々に心から感謝したい。

今回オーストラリアのシドニー大学をはじめ、ウェストミードの病院やコンコード病院を見学し、その施設の方々との交流を通じてさまざまな事を見て学び感じ取ることができた。

シドニー大学は 1850 年に設立された、オーストラリア最古の名門大学である。キャンパス内を散策し、さまざまな建物を外から見学したが、ゴシック形式の中庭や回廊などのある歴史的な石造りの建物と、法学部やリサーチ施設などを備えた近代的な建物が調和しているのがとても印象的だった。歴史的な建築物の代表はメインキャンパスにあるクワドラングルというゴシック調の建物で卒業式などが行われるそうだ。近代的な建築物の中でひととき印象的だったのが法学部の建物だ。モダンなデザイン性の高いその一方で、歴史的な建築物と調和していた。最後に“The HUB”という多目的な建物の中を見学した。研究室、ラーニングラボ、標本室、ディスカッションルーム、自習室、食堂など、多目的に学生が利用できる。ラーニングラボでは日本ではお目にかかったことのない最新の機器・設備が整っており、研究室は前面ガラス張りですべての中と外でやり取りがスムーズに進むようにという意図だそうだ。また HUB という建物の内の構造自体が非常に近代的かつ芸術的デザインで、それは学生、研究者の発想を豊かにし、ひらめきを生み出す鍵になるのだという。

ウェストミードにあるデンタルホスピタルでは学生の診療室見学に最も興味関心が湧いた。日本の私たちが通常利用している学生診療室では見られない器具や設備の使用、診療スタイル、各ルールなど、日本との相違点は見学すればするほど見つけることができた。注水用の水は蒸留水をボトルに汲んでセッティングしたものを使い、なにより驚いたのは、うがい用の流しやコップはなく患者本人が飲んで処理しているということだ。流し台という設備を設けないことで感染拡大防止に繋がっているということだから驚いた。カルテの書き方もほとんど違っていたし、CR の材料にアマルガムが常備されていた。それと同様に、日本との類似点も多く見つけた。やはり、修復材料は日本の会社のものが多く目立った。また学生複数人に対して指導教師が一人という体制での実習スタイルも似ている。

ウェストミードにあるチルドレンズホスピタルではとてもユーモアのある内装で子供たちの心を掴むような工夫がなされていた。多国語の本が売っている本屋や、映画やおもちゃがある遊びの部屋、他にも廊下の壁に所狭しと飾られた子供の書いた絵画など。見学しているだけで心躍るものを感じた。その病院の一角に歯科診療室が設けられており、床には熊の足跡やぞうの蛇口、天井には揺れるメリーゴーランドが飾られ、診療室とは思えないほど子どもたちの心を惹きつける可愛らしい内装になっていた。子供が病院に来てでも恐怖感を忘れてむしろ遊びに来たような気持ちになるのはもちろん、大人がいても退屈しない空間づくりである。

コンコード病院での見学では、学生のラーニングラボの最新の整った設備・機器に関心した。採血用の人体模型や、救急手当用の人体模型は実際に使ったことはあるが、腹腔鏡手術の実践用機器など試したことのない機器や模型の数も非常に多く、学生は実技を自主的に

学ぶための空間が整っていた。最も印象的だったのは、解剖図が立体で学べる大画面のタッチパネル式装置だ。施設の方が実演してくださり、最新の学習システムに非常に感心した。

今回の研修を通じて、現地では上記以外にも多くのことを感じ学び、それはさらなる視点の多様化と思考の拡大とも言えるだろう。写真や説明で海外の歯科医療を学ぶことは確かにできる。しかし、それとは別に実際に現地で見て肌で感じることは大切なことだと思う。それが将来的に歯科医師をやる上ではもちろん、自身の人生で大きな糧となるだろう。また英語に関しても、もっと英語を学習して少しでも多く聞き取らなければと思う場面が幾度もあり、今後の自分の英語学習のモチベーション向上のための大きなきっかけとなった。

シドニー大学での研修初日は、大学のキャンパスや新設されたばかりの研究施設（Charles Perkins Centre）を見学させていただいた。大学のキャンパスは驚くほど広く、オーストラリア初の大学でもあるため重厚な建物には歴史を感じました。また学生の 2 割は留学生であり、特にアジア系の留学生が多く目にとまった。Charles Perkins Centre は、研究室は全てカラス張りとなっており、研究者はいつでも外部の人と交流することができるように設計されていた。職種間の交流を重要視しており、さまざまな学生や職員が集まり、意見の交換を行うようなスペースが各所に設置されていた。また肥満や脳血管の研究を行うのと同時に、病院も併設されており、研究を行いながら治療を進めていく施設でもあった。2 目と 3 日目にはシドニー大学関連歯学部病院である Westmead Centre for Oral Health を訪問し、現地歯学部生が診療を行っている現場を見学した。現地の歯学部生が 3 年生～4 年生の間に患者を担当し、補綴・保存・外科に至るまで様々な症例の診療・治療を行っていた。3 年次には 2 人ペアで一人の患者を担当し、4 年次には一人で担当する。診療予定内容を記載し、診療前に指導医の確認を受けるシステムは東京医科歯科大学と一緒にあった。アマルガムを使用すること、またライトがまぶしいため患者にはサングラスをかけてもらうこと、感染対策のため唾液や水は吐き出さずにバキュームで吸うことなど、日本との違いも見られた。現地学生と交流する機会もあり、臨床実習のシステム、大学の卒業認定から卒業後の進路予定に至るまで学生同士らしい会話もすることができた。

Westmead Childrens Hospital では子供が楽しむことというコンセプトで建てられた小児病院を見学した。病院でありながら図書館や小児の遊ぶスペースがあったり、患者に楽しんでもらえるような施設であった。また Prof.Richard より小児の口腔症状と全身疾患の関係に関する講義を受けた。講義を受けて歯科を単独の学問としてとらえずに全身の一部として捉えており、口腔の症状と全身疾患とを関連づけて考えるべきである、と感じた。

4 日目は Concord Medical Education Centre にて、職員が病院内で勉強できる施設を見学した。解剖の標本が随所に置いてあり、採血や内視鏡の練習を行う設備、3D カラーで人体の解剖を学ぶことが出来る機械を見学した。オーストラリアには、歯科医師や歯科衛生士とは別に Dental Therapist という職種があり、小児の治療を行うことができることなど、日本とは制度や歯科事情が異なることを知った。現に、Dental Therapist が老人施設へ口腔ケアや定期健診に訪れていた。

今回、同じ志を持つ海外の歯科大学生との交流によって、自分のモチベーションが高まり、将来海外へ出ることも選択肢の一つに加えることができた。オーストラリアでの歯科事情を知り日本の仕組みとも比較することができ、とても有意義で実のある研修であったと思う。1 週間という短い研修期間であったが、非常に密度が濃く、さまざまな事を吸収でき、有意義な時間を過ごすことができた。



私達は今回 7 月 18 日から 7 月 27 日の日程でオーストラリア研修に参加した。研修ではシドニー大学のメインキャンパス、教育研究施設である Charles Perkins center、Westmead Hospital、Westmead Private Hospital、The children's hospital at Westmead、Concord general hospital の見学を行うとともに、シドニー大学の先生方から小児歯科や高齢者歯科に関する英語での講義を行っていただいた。ここでは本研修を通じて学んだこと、感じたことについて述べていく。

まず第一点として、オーストラリアでの感染予防に対する意識の高さが挙げられる。診療室では感染予防のガウンをセッション毎に取り替え、唾液が飛び散ることを防止するためにスピットンの廃止し、清潔域不潔域の徹底した区別する、患者には感染防護用眼鏡をかけさせるなど感染予防対策が徹底されていた。日本ではこのレベルの感染予防の意識の高さは見られないので、このような良い点は是非見習っていきたいと感じた。

二点目はシドニー大学の学生教育についてである。教育研究施設である Charles Perkins center の見学では、実験台には学生一人毎にモニターが設置され、多くのクリーンベンチを備えるなど学生実験室の設備の良さ、研究員同士のコミュニケーションを大切にした共用スペースやガラス張りの実験室など建物の設計などに感銘を受けた。歯学部 Sim clinic の見学の際もその設備の良さと、模型実習の時点から感染予防に力を入れていることが非常に印象的であった。それに加えて、Concord general hospital に併設された医学部の教育施設では臨床シミュレーションのための部屋や解剖を 3D で学べるシステムを設置するなど医学教育にも力を注いでいることが感じられた。このような教育・研究環境の良さが世界でも評価されるシドニー大学の質の高さに繋がっており、日本でも是非導入していただきたいと感じた。

三点目はオーストラリアの医療を取り巻く現状についてである。シドニー大学では様々な学部が協力して神経疾患や循環器疾患、肥満という問題に対する共同研究を行っていることを知った。またオーストラリアも徐々に高齢化が進んできており、今後の大きな課題であることを理解した。日本でも生活習慣の西洋化により循環器疾患、肥満などの問題が徐々に大きくなってきていることや、日本の高齢化社会はオーストラリアの先を行っていることから、日豪で共同研究を行うことでお互いの得意領域の知識を共有し両者の医療問題を効率的に解決していくことが可能なのではないかと考えた。

最後は学生診療室についてである。研修中に Westmead Hospital の学生診療室を二回見学した。学生診療室では患者は無料で治療が受けられるとのことであった。治療の内容自体にはう蝕除去後の充填にアマルガムを使うこと以外は日本と大きな違いがないように見受けられた。一方で学生の器具の持ち方や治療姿勢の良さ、感染対策への意識、歯科の知識等いずれも日本と比べて非常にレベルが高いと感じた。また学生達は、私達に気付くと気さくに声をかけてくれるなど医療従事者としてのコミュニケーション能力の高さなどが印象的

であった。他国の優秀な学生を見て、今後の勉強や臨床実習へのモチベーションが上昇した。

今回、オーストラリアを初めて訪問し、多彩な文化や風習、歯科医療を含む医療を取り巻く状況など多くの事を学んだ。オーストラリアは人種のるつぼとも言われるように、多種多様な人種、文化が入り交じっており、実際に歯科医療を受ける人の約半分は母国語が英語ではないとのことであった。今後ますますグローバル化が進む日本においては同様の状況になりえることを念頭に、そのような状況における歯科医療の在り方へ対する理解を深めたいと感じた。今後は本研修を通じて学んだオーストラリアの歯科医療の良い点を吸収し、日本の歯科医療の良かった部分は伸ばすようにして日本の歯科医療をより良いものにするとともに、将来的には国際的に活躍する歯科医師として日本の歯科医療の良い点を世界に広めていきたいと考える。

今回、私はシドニー大学歯学部を訪れ、病院見学、講義等の研修を行った。

初日は現地にいらっしゃった駒田先生と Dr. Alex がシドニー大学のメインキャンパスを案内してくださった。東南アジア地区最大といわれるこのキャンパスは美しく、開放感に満ちておりとても素敵だった。

二日目は、シドニー大学メインキャンパスから離れ、歯学部がある Westmead という街で研修を行った。初めに歯学部長 Prof. Deans が私たちを迎えてくださり、歯学部 4 年生が臨床実習を行っている病院を案内していただいた。オーストラリアは、日本の歯科制度と異なり、3 年間一般教養を他大学で専攻したのち、Doctor of Dental Surgery(DDS)にて 4 年間専門知識を勉強するので、4 年生が最高学年となる。彼らは、現在の私たちと同じようなシステムで臨床実習を行っており、ライターの監視のもと、一日に 2～3 人の患者を診療している。私たちと同様に義歯制作や修復治療に essential requirement があるそうだが、国家試験はなく、卒業と同時に資格が認定されるそうだ。また、患者は偶発事故に対する同意書のもと、無償で医療を提供されているそうだ。

その後も低学年のための実習スペースを見学したり、オーストラリアの公衆衛生に関する講義を受けたりした。オーストラリアは水道水のフッリデーションが進んでおり、2004 年にはフッ化水道水の普及率は 90%を超えているそうだ。これは、WHO に「20 世紀における公衆衛生上の 10 の偉大な業績のうちの一つである」と言われるほどであり、実際にオーストラリアにおける DMFT 指数の低下に大きな影響を及ぼしている。また、医療費全体に占める歯科医療費も 10 パーセント前後であり、日本のそれに比べるととても高いのが印象的だ。

最後は、Westmead Childrens Hospital を訪れた。ボランティアが 500 人以上もいるというシドニー最大の小児病院である。細部まで子供を楽しませる工夫が施された広大な病院を見学ののち、小児歯科で Prof. Richard の講義を受けた。小児歯科を行う上で歯科医が大切なことを伺った後、彼の著作である小児歯科の教科書を頂いた。メッセージも添えてくださり、今も大切に私の本棚に飾られている。

三日目は、再び Westmead の歯科病院にて、研究室や、前述した学生実習の部屋の見学を行った。

オーストラリアの歯科は、唾液感染を防ぐためにスピットンを使わず、すべてバキュームで吸引をしていたり、歯科医患者双方に眼鏡の着用が義務付けられていたり、非常に感染予防対策が進んでいることが印象的だった。

四日目は、Concord Repatriation and General Hospital (CRGH)を訪れ、病院見学や講義を受けた。ここは教育設備も併設しており、3D で人体解剖ができる機械や、内視鏡の実習器具等、興味深いものが多くあった。Dr. Steven による日本とオーストラリアの人口ピラミッドを比較した、高齢社会に向けた歯科の取り組みについての講義は中でもとても興

味深い。これから日本のような超高齢社会を迎えるオーストラリアだが、歯科衛生士の数、歯科治療適用の保険の不十分さなど問題点はまだ多く、日本を習いたいというその内容はとても印象的だった。

一週間余りの短い期間だったが、オーストラリアの歯科大学、歯科病院を多く見学でき非常に濃厚であり、大変満足している。

今回、7/18~7/26にかけてシドニー大学にて研修を行った。研修内容は多岐にわたり、シドニー大学見学からはじまり、シドニー大学付属歯学部病院見学、コンコード病院見学、小児科病院見学また各科の先生方によるレクチャーで構成された。以下3点に分けて感想を述べる。

1点目。シドニー大学見学では、多様な学部属する生徒が同じ研究を行うハブを見学した。環境を作ればより良い研究ができる、という信念から作られたハブの建物は、学生同士の交流を促す仕掛けが至るところに散りばめられていた。例えば、学生達が自由に利用できる学習スペースや、実験室での授業の他学部との共有、実験中の学生が見えるようガラス張りの壁にするなどである。これらにより、学生同士の交流や新しいアイデアが生まれていくという。昨今、医療でも他学部との連携の重要性が問われ、それが実現してきている。そこで、ハブの施設のように努力せずとも連携が取れるような設備を整えることで、今以上に連携が取れるようになる、と感じた。

2点目。小児歯科学分野 Prof Richard Widmer 先生の講義では、口腔内や全身所見から歯科医師が早期発見できる全身疾患の重要性について学んだ。口腔内の軟組織や硬組織の状態を診る段階で疑うべき疾患は多くあり、当たり前で診断できなければいけないことを再認識した。医科歯科で範囲が分かれているのは学問上のみでの話で、患者と対峙する際、歯科医師だからと医科分野の知識がないことは許されない。日々の診療のなかで、歯のみに関心をもつのではなく、全身を診る意識を忘れずにいきたいと改めて感じた。

3点目。全プログラムを通じて、改めて医療がグローバルに進歩していることを実感した。多くの研究者が人間の体という一つの個体を解明するために様々な研究を行い、情報を共有し、発展を続けている。医療の治療を進展させるものは研究でしかなく、病気は未だ解明されていないものが多い。莫大な時間がかかる分、研究の世界は地味だと、自分は無知故にそう認識していたが、研究こそが医学の治療法や診断技術を進歩させているものなのだと改めて考えさせられた。

今回の留学経験で、医療に携わる身として将来の展望を考慮するうえで、日本にいないだけでは知れない、非常に多くのことを学習することができ、参加して本当に良かったと思う。このような機会を与えてくれた本学に感謝したい。

シドニーでは、主にシドニー大学の Westmead Center、Westmead Childrens Hospital、CPC(Charles Perkins Clinic)、Concord Repatriation and General Hospital の四箇所の施設を見学しました。まず Westmead Center では、学生診療室で学生や指導教員と交流し、研究室を見学し、研究のお話を聞いたり、シャンティー先生のプロリデーションの講義や、医学的に易感染性の子供たちのマネージメントの講義を受けました。学生診療は D6 のシステムと似ていましたが、患者は無料なのと、患者も防護めがねをしていたり、スピットンがなかったり、より感染対策が厳しかったです。Westmead Childrens Hospital では、病院全体を見学し、子供たちが病院にいいところだと思ってくれるような工夫をたくさん見ました。例えば、診療科毎の看板には、耳鼻科には耳のいいコウモリなど、それぞれの診療科に関係する動物が描かれています。大きなぬいぐるみやイラストがあらゆることにあり、外にはまるで公園のような遊具がありました医科歯科の小児歯科では診療室に入る前から大泣きしている子ばかり見かけますが、こちらでは泣いている子をまったく見かけませんでした。様々な症候群について講義で学びました。CPC では、研究者同士の交流や発想の浮かぶような環境づくりをととても心がけていました。中心が広い吹き抜けとなっており、その空間を囲むようにガラスで仕切られた研究室や団欒スペースが作られ、開放的な建物でした。小さな部屋に分かれ、他の研究室に人がいるのかさえわからない日本の一般的な研究室とは違いました。Concord Repatriation and General Hospital では、第二次世界大戦中に兵士のために設立された病院の歴史について学びました。病院内にある医学部学生のための実習室なども見学しました。解剖の標本や授業で配信するための動画の撮影室や最新の 3D の解剖学用の機械などもありました。

今回気づいたことは、日本は学生がほぼ日本人なのに対して、シドニー大学の学生の半分ほどは海外からの学生ということです。シンガポールやカナダなどではオーストラリアの歯科医師免許が認められていることが関係しているようですが、海外の学生が見学に来たときの日本の学生の対応よりも、社交的に感じました。また軍の存在が生活に浸透していることも新鮮でした。日本ではなかなか軍に馴染みがないですが、シドニーでは退軍後は高額医療費も無料で、インプラントなども無料であり、日本にはない発想でした。そしてシドニーは日本よりも砂糖摂取量が多く、飲料も甘いものが多いので、歯科医師のコントロールが大変だったり、日本では浸透しつつある介護施設への歯科の介入が、シドニーではまだまだ受け入れられず、断られることが多いというのは、日本の食生活や介護の施設の態勢は恵まれているのだと思いました。勉強になったのは、オーストラリアのデンタルセラピストという職業です。日本にはない職業で、歯科医師と衛生士の中間であり、衛生士よりも多くの資格を持ちます。日本での歯科衛生士の仕事に加えて、レントゲン撮影、局所麻酔、歯型印象、入れ歯やスプリントの調整などを行うことができます。デンタルセラピストが、日本においてこれから導入されると、優秀な衛生士のさらに活躍する場を作れると思いました。

今回のシドニー研修における反省点は、語学力が足りなかったことです。いかにアジアの人々とネイティブな人の英語が違うのか、またいかに自分がスピードについていけないか実感しました。これからの目標としては、国家試験合格後は、大学院進学後の国際交流、論文、学会などのために英語をもっと話すのも、聞くのもできるようになりたいです。そして今度は言葉でつまずかずに、活躍できるように頑張ります。

#### **IV Students' report (English)**

**Nanase Igarashi**

On the first day of our programme, Dr. Wrianski and Dr. Komada gave us the school tour of Main Campus. I found some of the buildings had very long histories and designed as neo-gothic architectures, at the same time there was some of the buildings had the newest facilities and looked very modern. After that, we visited Charles Perkins Centre(CPC). CPC's mission is to deal with obesity, diabetes, cardiovascular disease and their related conditions that in many cases can lead to death, disability and reduced quality of life. CPC provides very unique opportunity for collaboration with multiple disciplines and integrate solutions through clinicians, nutritionists, and health scientists working together. This research and educational hub was founded in the name of "Charles Perkins", who was the first Aboriginal graduate of the University, as they want to look beyond traditional boundaries to improve the health of the nation in the same way Charles Perkins' Aboriginality brought this University the idea of "diversity".

The next two days of the proramme took place in Westmead Centre of Oral Health and Westmead Children's Hospital. We visited Student Clinic and Simulation Clinic, and observed a little. At the Simulation Lab, we heard that the students are strictly taught about "standard precautions" even though they are not actually exposed to any infectious materials yet, which enables them to understand exactly how to act when they are dealing with real patients. Also, we were able to see how their infection control is carried out through disposable gowns at the clinic, eye guard for each patient, and no spittoon bowls that was a little surprising for us. However, these things were quite similar to what I had saw at the Clinic in the United States so it made me think about universal standards of infection prophylaxis. About dental educational systems in Australia, we were surprised that they have neither National Board Examination nor internship/residency programme. Another fact we learnt was that they have "Dental Therapists" which is a 3-year bachelor degree to perform simple composite restorations, local anesthesia and extraction of deciduous teeth for people from age 0-18 other than educate children or do some oral examinations.

In the Student Clinic, we got to spend some time with students and faculties and talked about what they were working on. The Student Clinic offers free dental care to patients and for the first year of their clinical training, students make a pair of two and see patients with their clinical partners. Students are expected to exchange ideas and learn from each other. Their clinical training curriculum has particular sessions like perio sessions or endo sessions and they see those patients intensively during those period. I also realised that they are



putting seals of patients' information to each page of the medical record, and they have to ask for their patients to sign for their medical treatment-planning sheet.

Personally, the most impressive place was Children's hospital at Westmead. Entering the building, I felt cheery, happy atmosphere that the hospital has. With some colourful objects and drawings on the wall, clowns to entertain children, book bunker that has nearly 10,000 books, the special recreation room that no medical staff is allowed, and the room for parents to stay, this hospital was full of ideas to ease children's anxiety. Furthermore, I was impressed with the fact that great number of staff is working as a volunteer and lots of facilities are made of donations.

Through these experiences, I believe that each of us came to think of what we can do to improve dentistry in Japan and create our own vision to some extent.

Finally, I would like to express my utmost gratitude to all those involved in providing us the invaluable opportunity of participating in this programme, all the people from the University of Sydney who gave us wonderful lectures, and especially Dr. Alex Wirianski and Dr. Wataru Komada who were kind enough to spare their precious time for supporting us during our stay.

I have learned a whole lot by actually putting myself in the international field, including the University of Sydney, Concorde hospital, Westmead hospital. The University of Sydney is one of the prestigious universities in Australia, founded in 1850. When looking around the campus, what hit me the most was the concordance brought by the historical shelter built in stones which includes the gothic-shaped yard or the hallway, and one of the modern buildings that have research institutions and other departments used nowadays. Graduation ceremony and other ones are being done in the gothic-shaped building, named "Quadrangle", one of the main historical buildings in the main campus. The one that stood out above all the modern shelters was the building of the department of law. Although it holds a great modern design, it still contained a great balance with the historical buildings around it. The last building we looked at was "The HUB", the multi-purpose building. The students can use the room however they want, as a lab, a discussion room, etc. The learning lab has many kinds of latest equipments, facilities; and the research lab is entirely surrounded by glass, and it was designed so to be able to have a smooth communication in and out. Plus, the HUB has a great inner design, this is said to be a key for the students and the researchers to lighten up their ideas.

In the dental hospital in Westmead, I was very interested in the students hospital look-around. The more I observe, the more I could find the differences with the Japanese students' curriculum. What surprised me was that the water used for the dental chair is being managed by drinking by themselves, not by pouring out in the sink outside or anything like that; keeping the infection from spreading like that, I thought, was very wise. The way they write cards was different, they still had amalgam. Likewise, they also showed a great similarity. They still had restorative material from the Japanese company. The fact that one tutor was supervising a few students was one of the other similarities.

In the children's hospital in Westmead, they had a great sense of humor included in the inner design which apparently brings the delight to the children's eyes, including the bookstore that sells books in many languages, the playing room containing movies, and toys, etc. In the corner of the hospital is the dental room, and inside they have the picture of the bear, elephant, and other animals in the wall, ceiling, everywhere in the room, for entertaining coming-children. I really think this is a wonderful way for children to be able to forget the way they think toward "dentists".

In the Concorde hospital, they had a great size of the students' lab consisting of some latest facilities, machineries, and so on. There were many models created for students' education which I have never seen in my entire life, at least not while I was in Japan. What

impressed me the most was the screen-type anatomical 3D model, which we can actually touch the screen while learning however we want.

I consider this program very helpful for broadening my own perspectives. Looking at the photos taken abroad or by listening to or reading about the international dental treatment might help us learn more about it, but actually getting in touch with it greatly helps ourselves even more, as a person and as a student. I am quite sure what I have earned will be “something” in the near future as I pursue my career as a dentist. As I could find myself not fond of English, and as I found myself stuck in a situation where I had difficulty listening to the conversation, these situations motivated me a whole lot as I know English will be a great help for me in the near future.

On the first day of visiting The University of Sydney, I was first stunned by the size of the campus. The campus was very clean, but we could feel the history from the old buildings. 20% of the students in The University of Sydney are from foreign country, and there were many students from China and India visiting campus during the time of the year. In the afternoon, we visited Charles Perkins Centre (CPC), which is a relatively new building where research and student labs are held. The leading causes of death in Australia are obesity, diabetes and cardiovascular disease, and CPC mainly focuses on these three causes on research. In addition, there is a hospital within the facility for treating patients with obesity. Therefore, research and treatment takes place at the same time at CPC.

On the second day and third day, we visited Westmead Centre of Oral Health, where 3rd and 4th year dental students of The University of Sydney treat patients. We looked around the extraction room, and common treatment room for dental students. We also visited special treatment room for specialists. Dental school in Australia is a graduate level; therefore students must complete their Bachelor's degree in any major before applying to dental school. 3rd year student are paired up with other students and take in charge of patients, and 4th year student treat their patients by themselves. The average number of patients they have is 7-8 patients. They have to complete certain number of cases on periodontal treatment, endodontic treatment, teeth extraction, and making dentures. Moreover, they have to write down their treatment plans for the day, and have them checked by their supervisors before they start treatment. These systems for dental students are very similar to what we do in Japan. On the other hand, there are differences in dental treatment, such as putting sunglass on the patients to avoid the lights and suctioning all the saliva and water in the mouth and not let patients to spit it out to prevent infection. We also visited Simulation Clinic where dental students can practice their teeth fillings.

There were also lectures about Public Health in Australia and the way to relate child oral symptoms to systemic disease. I learned that dentistry is not an organ by itself but it is a part of organ in human body, and dentists must able to guess the body signal of illness from their oral conditions.

We had chance to interact with dental students in Australia, and talked about the school life, and the future plans. Many students are from Canada, and there were going back to take the board exam to get licensed in Canada as well. By meeting the students with same major around my age, it definitely broadened my perspective and enhanced my motivation.

We participated in the training program in Australia from July 18<sup>th</sup> through July 27<sup>th</sup>. During the program, we visited Charles Perkins center – new research and education center, Westmead Hospital, Westmead Private Hospital, The children's hospital at Westmead and Concord general hospital. Staff from the university of Sydney gave us some lectures on pediatric dentistry and geriatric dentistry. I am writing what I learned and felt in this program.

First is the high consciousness of infection control in Australia. In the clinic, dentists change gowns for infection prevention every session, abolished spittoon for not spreading saliva out, distinguish clean field and unclean field and patients wear protective eye glasses. We don't do it at this level in Japan and should learn from them.

Second is the student education in Sydney University. In Charles Perkins center, LCD monitor is installed for each student at the lab bench and there are many clean bench for students. The objective of the design of this building is to encourage communication among researchers. They think communication stimulates their creativity. That was very impressive for me. The facilities in Sim clinic were also excellent. What is surprising is that they are careful about infection control even at sim clinic. In addition to that, the education institute of medical school in Concord general hospital has 3D learning system for anatomy and rooms for clinical simulation. These world-class facilities lead to the quality and reputation of the university of Sydney. Therefore, we should introduce such kinds of facilities.

The third is the environment surrounding medical service in Australia. In the university of Sydney, many faculties cooperate with each other on the studies about neurological diseases, cardiovascular diseases and obesity. The society is aging gradually in Australia and it is starting to become a problem. Taking into consideration that such kinds of diseases are becoming problems and the society is already super aging society in Japan, it may be possible to solve the problems effectively by doing research together and sharing knowledge.

The last is about student clinic. We visited the student clinic in Westmead Hospital twice. There, patients can take dental treatments for free. I couldn't find big difference of treatment other than amalgam filling in restorative treatment. On the other hand, handling of instruments and posture of students are fully trained and their knowledge about dentistry is very well. Their communication skills are also amazing, they talked to us as soon as they noticed us. I'm really motivated to study and clinical training by seeing such excellent students.

We studied a lot about multi culture, customs and the current situation of medical service in Australia. As Australia is called as a cultural, ethnic melting pot, various kinds of culture and people mix in the society. As a result of that, about half of patients who take

dental treatment don't speak English at home. Japan is getting been globalized more and more, then we can learn from the multi-cultural situation in Australia. From now on, I would like to improve Japanese dental service by studying from that of Australia and introduce the good point of Japanese dental service to the world.

The first day of our research program, we met Dr. Alex, who had researched in TMDU and had been familiar with Japanese, and Dr. Komada. They showed us around main campus of Sydney university. Sydney university is said to be the hugest university in Southeast Asia and I was impressed its beauty and expansivity .

The second day, we visited Westmead Centre for Oral Health (WCOH). Prof. Dean and Dr. Ben welcomed us and showed us around hospital.

They also showed us students clinic and dental 4<sup>th</sup> grade students treated 2~3 their patients per day like our clinical training. In Australia, students have to enter the school of science degree before studying dentistry. After graduating from it, they can belong to Doctor of Dental Surgery (DDS) for 4 years and can be dentist without national examination. Their treatment is done under the monitoring of instructors and there are essential requirement about treatments like us. The difference is that patients don't have to pay any costs.

We also visited training room for lower-class students and listened to lectures about public health in Australia. I am interested in two things. One is that the diffusion rate of fluoride water got over 90% in 2004. This water fluoridation is said to be one of the 10 grand achievements for public health in the 20<sup>th</sup> century by WHO. It actually brings the DMFT index down in Australia. For second, the rate of dental expenses accounts for more than 10 % of all medical expenses.

Westmead Children Hospital is one of the hospitals we visited. It is hugest children's hospital in Sydney and building is so pretty to make children happy. We met Prof. Richard and listened to his lecture about syndromes and diseases of children. He presented us a book about Pediatric dentistry he'd written and this book is still be displayed in my room.

The third day, we visited research facilities in WCOH and clinic. They in particular focused on infection control and we can feel it at many situation. For example, patients don't spew out their saliva for fear that it can be roots of infection. Dentists inhale all liquid by vacuum excreted under treatment. I was also surprised at both dentists and patients have to wear glasses to preserve their eyes from infection.

The fourth day, we visited Concord Repatriation and General Hospital (CRGH), which also developed as teaching facilities and we could see many kinds of training machines for students.

The lecture which I was interested most in Sydney was given by Dr. Steven about population problems compared with Australia and Japanese.

It is wildly known that Japan is facing severe population problem and rate of aging people is getting higher and higher. This fact suits to Australia and now Australia wants to learn about Japanese insurance system and geriatric dentistry. I guess that Japan can be and probably must be the rule-model of geriatric medicine in the world. It was first time for me to visit Sydney and I had great time there. This experience will be the great memory for me.



I had a great opportunity to attend this program for a week in Australia. This program included many things to do. It was composed of the following; The tour of the university of Sydney main campus, the tour of Concord hospital, the tour of Westmead children's hospital and lectures about public health, pediatrics and so on. I've divided my impressions from this program into three parts.

First - ENVIRONMENT is the most important to collaborate.

We had a tour at HUB building in main campus. This facility is shared with various occupations and they work together. When we went around, we realized that this building moves people to collaborate together. For example, clear wall at laboratories enables them to see what researcher inside the room doing. People walking besides the room got to have interests their work, and trying to talk to them. If various background researchers share their knowledge together, it could give them new ideas. Nowadays, we realize the importance of collaborations between medicine and dentistry in Japan. To refine this, I think changing environment will be a good advice for it.

Second – studying WHOLE BODY is important for dentist to understand patients.

We had a lecture from Prf. Richard Widmer in Paediatric dentistry. He emphasized that dentists shall become the first person who diagnoses little patients who has serious illnesses. Sometimes patients who have illness have symptoms inside mouth. Dentists more see inside mouth than doctors. So we must realize what the differences who have illnesses from normal person are. Medical doctors and dentists have different educations though, patients have only one body. There are no differences between body and mouth. They work together. Of course we are dentists and we are specialized in dentistry though, we have a duty to know whole body functions and illness. That lecture reminded me of this simple and important thing. I want to keep it in mind in my life.

Finally – realized GLOBALIZATION of medical research.

Through all in this program, I realized that medicine have been developed by researchers lives in whole world. Many researches do their research in various places, and they share their achievement through the internet, conference and papers. I didn't know that there are so many unknown things about illnesses and human bodies. Without research them, our treatment skills will not progress. Doing research and get an achievement from it takes long time though, it worth doing and someone must do it. I did not have interest to become a

researcher before I attended this tour. Lectures and introduction from researchers changed my mind.

Summarizing the above, I got to know many valuable things that I could not know in Japan. This experience did changed my life as a dentist and a human. I want to say thank you for giving me this experiences.

We went to Westmead Center for Oral Health, Westmead Childrens Hospital, CPC (Charles Perkins Clinic) and Concord Repatriation and General Hospital in Sydney.

In Westmead Center, we visited student clinic and laboratories. We communicated with instructors and students. Half of students are Australian, but the other half is from foreign countries because Australian dentist license can be used in other countries for example, Singapore and Canada. In Sydney University, students are more used to talking with foreigners and friendly and sociable than Japanese students. Almost students in Japan is Japanese, so it's big difference between Sydney and Japan. And we learned about infectious measures in Sydney University. There was no spitons and patients also worn protect glasses. We had the lecture about Dentistry and population oral health in Australia and lecture about Management of the Medically Compromised Child.

In Westmead Childrens Hospital, we can find big stuffed toies, pictures, paintings and parks. There were many things which make children happy. In my university, children are crying before sitting the chair, but we didn't see children who were crying there. We studied about some syndromes.

In CPC (Charles Perkins Clinic), we saw the many laboratories. People in laboratories can see each other. That makes more ideas and imagination. It looked really different from Japanese laboratories.

In Concord Repatraition and General Hospital, we learned about the history of the hospital. The hospital had been built in World War 2.

I learned especially three in this program. First is about army. Army is not familiar with us in Japan, so it is fresh for me that army is familiar in Sydney. In Sydney, ex - servicemen can be treated by free. They can get dental implants or dentures. It was surprised for me.

Second is difference in dental situation between Sydney and Japan. In Sydney, the intake of sugar is high and people drink a lot of beverage with sugar. So it is difficult to control the oral health of patients. And dentists are not familiar with nursing home, they sometimes are refused. That told me that Japanese diet and attitudes of nursing home is better for dentists.

Third is job in Sydney. I learned the job, "Dental Therapist". We don't have Dental Therapist in Japan. They are intermediate between Dentists and Dental Hygienist. But they can do more things than Dental Hygienist. Dental Therapist can do the work of Dental Hygienist and taking an X-ray, local anesthesia, impression, adjusting denture

or mouthpiece. Dentists need more cost and are not enough in Sydney. I think If Dental Therapist were introduced to Japan, excellent dental hygienist can be active.

Through this program, I feel my English is not enough to communicate with native English speaker about dentistry. I learned the difference of native speakers and Asian's English. I have to improve my English skill. The tasks and goals from now on is improving my English skill for a thesis, conference, international exchange.

V 国際シンポジウムでの発表  
Presentation at International Symposium

**What We Learned and What We Thought through the Dental Training Program in Australia**

**Date:** October 23 (Fri), 2015 12:50-15:40

**Venue:** Gymnastic Hall, 6F Bldg#5, Tokyo Medical and Dental University

**Participants:** Undergraduate dental students 2 – 4<sup>th</sup> year (TMDU),  
Overseas students from Chulalongkorn University (Thailand), Srinakharinwirot  
University (Thailand), Universitas Indonesia (Indonesia) and University of Medicine  
and Pharmacy at Ho Chi Minh City (Viet Nam)

**MC:** Ms. Okabe (D4) Mr. Mayama (D3)

**Opening remarks**

**Prof. Moriyama** (Dean, Tokyo Medical and Dental University)

**Students Presentations**

**“What We Learned and What We Thought through the International Exchange Programs”**

1. TMDU D6 students (Dental Training Program in Australia)
2. Chulalongkorn University
3. Universitas Indonesia
4. TMDU D4&D3 students (Dental Training Program in Viet Nam)
5. University of Medicine and Pharmacy at HCMC
6. Srinakharinwirot University
7. TMDU D3 students (Dental Training Program in Indonesia)

**MC:** Mr. Aoi (D3) Mr. Suzuki (D3)

**Cultural Exchange**

1. Chulalongkorn University
2. Universitas Indonesia
3. University of Medicine and Pharmacy at HCMC
4. Srinakharinwirot University

## Dental training program in Australia July 18-27, 2015



TMDU 6<sup>th</sup> year students

Nanase IGARASHI  
Misako KISHI  
Yue SHIRAHARA  
Takayuki SUGA  
Saeko NAKAMURA  
Hitomi HASE  
Yuka FUJITA

### Objectives

- To learn about Australian dental situation
- To know Australian culture and to make friends
- To observe the dental hospital (public & private)
- To observe the students' clinic
- To observe research facilities

To get International viewpoint  
To improve English ability



Main Campus, the University of Sydney

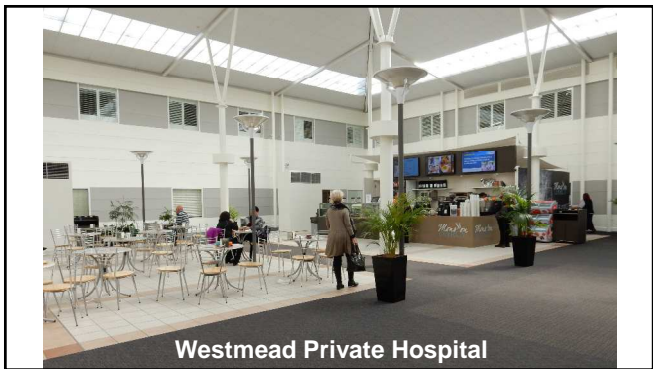
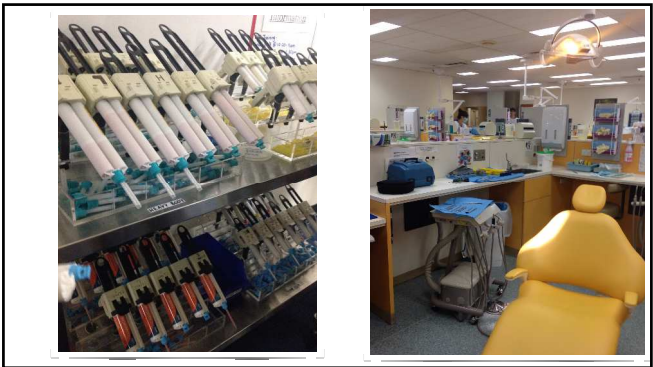
### Charles Perkins Centre



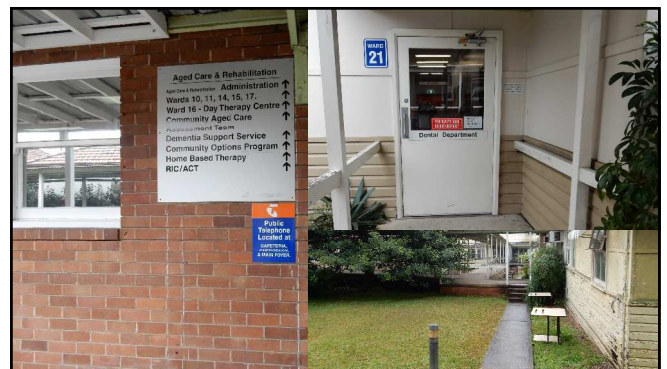
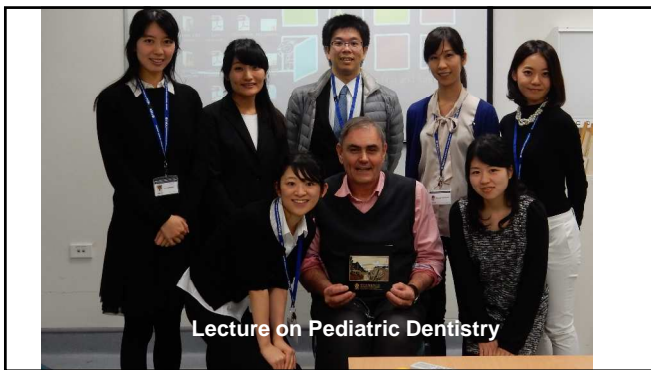
Welcome meeting with Prof. Peck, dean



Research Facilities  
at Westmead Center for Oral Health







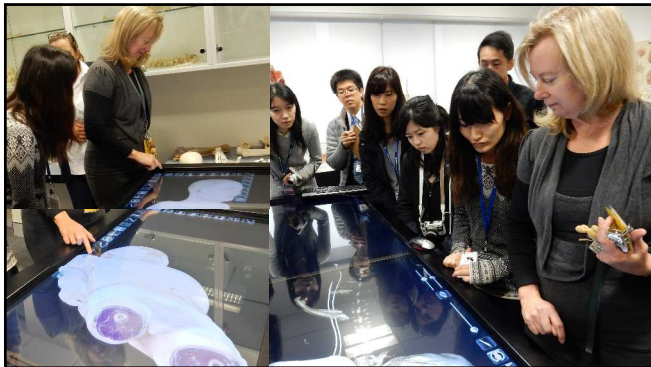




Concord Medical Education Centre



Simulation lab



Discussion on Services and Research at Concord



City of Sydney



Enjoyed local beer



## **Dental training program in Australia**

Slide 1: Good afternoon everyone, today I would like to give a presentation for dental training program in Australia. My name is Takayuki Suga, 6 grade student. We participated in the training program in Australia from July 18th through July 27th.

Slide 2: There are many objectives of the program.

To learn about Australian dental situation and Australian culture

To observe the dental hospital, the students' clinic and research facilities

To know Australian culture and to make friends

At the same time To get an International viewpoint and To improve English ability

In short, to acquire an international viewpoint by getting to know the Australian dental service.

Personally speaking this is the first time to visit a developed country other than Japan.

So I participated in this program with the ambition of finding a way to improve Japanese dentistry by comparing it with that of Australia.

Slide 3: First, we visited the main campus of the University of Sydney which located in the center of the city.

In Australia, the society is aging gradually and it is starting to become a problem.

In the University of Sydney, many faculties cooperate with each other on the studies about aging-associated diseases such as, neurological diseases, cardiovascular diseases and obesity.

Slide 4: Charles Perkins Center is a frontier institute of such kind of researches.

State of the art research machines are installed. This enables researchers to do world class researches.

The building offers researches not only these machines but also the environment which encourages communication.

Glass walls, like the ones shown in this photo, can be seen throughout the building. You can see what other people are doing and later you can talk about it.

Also common space which is shared by researchers is there. Interaction between researchers from different fields produces new ideas.

Slide 5: Next, we visited Westmead Hospital which is a hospital of the university. There, the dean of the dental school kindly welcomed us.

Slide 6: Inside the hospital, there are also lots of laboratories and they are doing exciting researches. A dentist from TMDU working at there, which made us know the relationship between two universities.

Slide 7: Education building is located beside the hospital. And we observed simulation clinic. Surprisingly, they are caring about infection control even though pre-clinical training.

Slide 8: This is the Student clinic. At here, infection control was implemented thoroughly. In the clinic, students changed gowns for infection prevention every session. They abolished spittoon for not spreading saliva out, distinguish clean field and unclean field and patients wear protective eye glasses.

Slide 9: This is not something practiced only by students. Having had these kinds of training, dentists in Australia are highly consciousness about infection control. We don't do it at this level in Japan and should learn from them.

Slide 10: Dental materials were almost same with us. The biggest difference was that they do amalgam filling. In Japan, mercury poisoning to environment happened and it became a big social problem in the past, so we don't use amalgam as filling material because people are very sensitive to toxicity of mercury.

Slide 11: This is another hospital of Westmead. Different from public hospital, they offer the highest standards of service, but it costs very much.

Slide 12: Next is the royal Alexandra hospital for children. This is also a related hospital of the university. In this hospital,

many volunteers and even the guide for our hospital tour was volunteer.

Slide 13: There were many features that would be fun for children. A bear is climbing up a poll.

Slide 14: There is a TV station which broadcast special program in the hospital. In addition to that library and hospital school are there. This facilities give children power to fight against their diseases.

Slide 15: At the end of hospital tour, the professor of pediatric dentistry kindly gave us a lecture about pediatric dentistry and introduce us their clinic.

Slide 16: Inside the clinic, there are lots of dolls and the room was decorated with funny things and Many photos of smiling children were on the board.

Slide 17: At the last, we visited concord repatriation and general hospital.

Though Westmead and Royal Alexandra Hospital for Children are in the outskirts of the city, this hospital located in the city

This hospital was founded in 1941 and play a major role in providing health care service to the community.

Slide 18: Look at here, aged care and rehabilitation. This hospital is active in geriatrics.

Slide 19: The hospital has an education institute of medical school. There are many cutting edge facilities.

Slide 20: Before starting clinical training in the hospital, medical students can practice medical examinations or hospital work at the simulation laboratory. How to collect blood or how to move a patient from wheelchair to bed.

Slide 21: This is a 3D learning system for anatomy. You can see muscles, bones and other structures at every layer level of human body, using the touch display.

Slide 22: We took lectures about the environment surrounding medical service in Australia.

This is a special car for visit dental treatment. Because of aging society, the importance of this kind of car is getting bigger as the society is aging.

Slide 23: On weekend, we visited many sightseeing spots. Sydney is a port town, so Fisher's Market is very famous.

Slide 24: We enjoyed Australian food and drinks so much. Aussie beef and dairy products were my favorites.

Slide 25: We are overwhelmed to great Australian nature, especially Blue Mountains, a world heritage site.

Slide 26: In addition to that we visited a historically and culturally important site, Cockatoo Island. Cockatoo Island is also a World heritage site. In the past, Cockatoo Island operated as a convict penal establishment and was the site of one of Australia's biggest shipyards. It enhances understanding of maritime and heavy industrial processes in Australia from the mid-19th century

Slide 27: Through this dental training program in Australia, we learned the current situation of Australian society and Australian dental services. Now I would like to mention three points to sum up our experience. First is infection control. It was most impressive thing for me. People come to dental clinics to be cured diseases, not to be infected diseases. We should eradicate such kind of medical accident. To protect patients and ourselves from infections, we would like to adopt good features of them and improve Japanese dentistry. Second is the number of volunteers. Different from Japan, there are many volunteers in the hospital. The people's attitude to medical service is totally different. Not only doctors but the volunteers play fundamental role in medical service. The increasing medical cost is the biggest problem in the Japanese medical service. By changing notion of volunteer, it might be a potential solution for this problem.

Third is the aging Australian society. This is the problem that many developed countries have or will have in the near future.

Taking into consideration that such kinds of diseases are becoming problems and the society is already super aging society in Japan, it may be possible to solve the problems effectively by doing research together and sharing

knowledge. To make a basis for such relations, inter-university exchange program has great importance.

Now I would like to tell TMDU students a little bit about overseas program.

As you might know, the Japanese society and dental service has been changing gradually. The society will be internationalized at the speed we couldn't imagine before.

By participating in the overseas programs, you can acquire international viewpoints and you can find that what you think is natural is not natural sometimes. As a result, you can get an ability to adjust yourself to the changing world.

In addition to that, participation in the overseas programs might be a help to your future plan.

Every time I participated in overseas training program, I considered what is Japanese dental service and how I can improve it.

That experience has had a great effect on my attitude to clinical training that I'm doing now and course after graduation.

TMDU gives you many opportunities to participate in these kinds of overseas programs.

If you feel hesitation because of lack of international experience. Please do not hesitate. When I applied for the overseas program for the first time, I had never been to foreign countries. Many people would support your journey.

There is one important advice from me. To make your overseas training more fruitful, please study hard English and dentistry.

This is the end of our presentation, thank you for your kind attention.